

ひらやま十七号

何始 たあをなーー学ま がにンてまで聞くえたヤみてうくた団れやバな入こそ 習す  
もめそのい覚どな初校しそら行を、し、いがて。ブま私れれらしどるレゼ団とう私い。私  
分てしをさえ、んめにたし体きし親た「て近い少テしたしまよた、ス！なすにだははバは  
かて覚つてた、て行。て育入てと。とくづましんたちかしうくそポボらるるきな近じレ今、  
ら週初えすいくしのつ行バ館団き話そてれいす繁が。はつたやてれ！！私のめと所め！  
な間めてるまさ！子たくしを書まししもまて。張イ見実た。く必でツルはにま思のまボバ  
くしていとすんじでらと！でをしていしきそしス学際のあ父死もだはは少少しい友し！レ  
てかのま、中、をまわたバ練いたしてをににをのがにどと背しした、だたル。はボ  
困た試す。やそ問うね。  
つつ合 さしさ思  
たてで してれつ  
のなす く監てたん  
をか うと繁ん  
覚つバ れく張で  
えたし しのしす  
ての！ か前たか。  
いでを つでの！

はした。レ習と。、て見もい練覚時う説う言の背反。バち  
はじたしー！が思私一練学つく習えはな得しわ高が対最しに  
どきめ て週の終いはど習してとのてとすしてれい低し初！さ  
どきや う間入わまとうがてき、見いていてもた人いて私ボもてい入けがかいの！わ  
きしや き後団りすてだ終いてそ学ま  
ましる う、書家」もつわたくのにす  
したが き体ににと緊たりのれ時い。  
。き し育サ帰言張「監をまのつそ  
な館イついしとと覚しキてし





うぞ 連班 たをい しみ  
放ごなもれ長わ「しまわん6  
送ざぞうてにたとてしたらな年  
委いでいいなし書くたし階が生  
員まもつくはきれ。は段書に手  
会しりは「のて「まで1「のい手  
のたあ「か「年「かて紙  
の「げ「な1も6  
人「と「お「と「年「生  
は「書く「と「生「に「な  
お「きれ「放「い「4年「生  
も「ま「送「し「た「年「と  
しろ「た「り「が「と「な  
い「内「容

夏の終わりの  
おしらせと  
秋がはじまる 祝いの歌を

短歌

六年三組 佐藤 加  
おひぐらしが  
おしらせと  
秋がはじまる 祝いの歌を 夏の終わりの



すちし か！ ししおきがは思たかれ決ます  
°優てこをム私た！母、でおいけつど勝るす  
勝、れしのの。をさ満きいまとた、ま時。  
で目かなみ目こしん足てしすそで私でに何  
で標らいん標のた同で写い。れすはきな回  
きにはよなは時り士し真も次も。優てりか  
るにはこうを、間、がた。ものはい最勝うま試  
よつの環まキ一さし次くい団経なたしたを  
うて三境とや番き合会なんばでにでつつ最  
に、年をめブ楽といももといすな泣たた後六  
がも間作二ンかん遊、ある食。ついのの年の年  
んつのる年をつんだりもしとる団としくあ合が  
ばと学年をつんだりもしとる団としくあ合が  
る試ひとと生支たたりもしとる団としくあ合が  
こ合をでがえでしはたがこ式私まやるは卒  
とで生すけ、すしはたがこ式私まやるは卒  
で勝か。んチ。まバ。でとではつしけ準団



成色 しくだまとのは得で と分えあてがで  
で々二て、めう決はど意す二思のてりで、す一私  
き大〇い挑だこめやうは。つい後、ます一。つは  
る変二こ戦ととつるしあ人は、目ま悔選す。番学目〇  
によに五うし決がけ前てりに、うな年とてめ多てかもまは「  
頑りは思みつい諦ら苦す得苦  
張ま中まとてめだ手が意手なこ  
うが、学校に入学し、うめから、  
と思ひます。うことを大切は年になは  
と達





出 つしもん だりを考  
を卒てたがばさなずる  
つ業部。んついとる  
くま活勉ばて後思のた  
りでも強りくにいがり、  
たあるもまだ「ま  
いとん」い学たい。樂  
です。よどんと。校へを  
つ思ん書わでんかけ  
といときたもなけた  
だまむましがんけ  
けしずど。かしくな  
ど、  
思  
い



うぐいすが 梅の小枝  
とまつてゐる  
保育園の 小わな梅の木に  
六年一組 矢野 瑞希  
《令和七年三月七日放送》  
じこにこね めいじやくひのと  
鳥の声 探して見つけ しおかじわく  
六年三組 松岡 寛仁  
《令和七年三月七日放送》  
三年一組 小野 武丸

【夕刊】テイリー『光の子』三月一日

【短歌】「てナビ！」からアオハル わけもん短歌